

【神道文化学部】

小論文試験

解答例（解答のポイント）

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

問 1

（要旨例）

古代の祭祀には、神々のネットワークが、自然環境を守る聖空間を構成しているという視点が見られる。例えば、農耕生活に密接な祭りの祝詞における「水」の表現から、上流・下流の人々がお互いに意識することの必要性が見出せ、水の発生限は聖空間と観念されている。これは、個々の地点が実際には相互に連結し、人間の生活が神々の世界の中にあるという観念が共有されていたことを示す。現代社会では、こうした観念が分断され、全体的つながり意識が感じられなくなっている。

（解答のポイント）

- ・要約が適切になされているか。
- ・自身の論（意見）が展開されているか。
- ・設問の趣旨を踏まえて論理的に解答されているか。

問 2

（要旨例）

日本の山は、人間の生活の場とほどよい距離にあり、人々の生活を支え、自然といのちの交感に場となってきた。山中の大樹、巨岩、湧水、湖沼などは信仰対象であり、小祠、小堂、神社、寺院になっている。山は農業の必要な水の源としての崇敬対象の場で、春と秋に山の神が田の神と交替する伝承がある。祖先の霊は、三十三回忌

後に高い山で祖霊から神となり、山の神に融合する。また、山の自然の四季の移り行きは、農作業の目安となった。

(解答のポイント)

- ・著者の主張（問題文）と自分の考え方を分別（対比）しながら書いている。
- ・自分の考え方の根拠（具体的な儀礼名や自身の体験、学校での学習内容など）を挙げている